



クライアント 操作マニュアル

C00-00 共通操作編

株式会社 NTTデータ NJK

- ・このソフトウェアの著作権は、株式会社 NTT データ NJK にあります。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することは法律で禁止されております。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・このソフトウェアの仕様およびマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。
- ・このマニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

DataNature および DataNature Smart は、株式会社 NTT データ NJK の登録商標です。
その他の商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

CONTENTS

マニュアルの表記.....	C00-00_0
1.起動と終了	C00-00_1
1-1 起動.....	C00-00_1
1-2 終了.....	C00-00_2
2.画面の流れ.....	C00-00_3
3.ツールバーの設定	C00-00_4
◆アイコンラベルの表示	C00-00_4
◆アイコンラベルの配置	C00-00_4
◆ツールバーの表示設定	C00-00_4
◆ツールバーのカスタマイズ	C00-00_4
◆ツールバーのリセット(全て表示/初期表示)	C00-00_5
4.ファイルの種類と機能	C00-00_6
4-1 データファイル.....	C00-00_6
<データフィルター>	C00-00_6
<パラメーターファイル>	C00-00_7
4-2 テンプレートファイル.....	C00-00_8

マニュアルの表記

◆ 呼称について

本マニュアルでは以下の呼称を使用しています。

DataNature Smart 管理ツール :DN 管理ツール
DataNature Smart クライアント :DN クライアント
DataNature Smart Personal :DN クライアント

◆ 画面に表示されるコマンド名などの文字

コマンド名やダイアログボックス名など、画面上の固有の文字は [] で囲んで表記します。なお、ユーザーによって異なるデータボタンは < > で囲んで表記します。

【例】

[編集]コマンド、[検索]ダイアログボックス
<大阪営業所>データボタン

◆ マニュアルで使用しているアイコン



“注意”を意味します。

知っておくべき重要な事柄や行なってはならない操作など、注意すべきことについて記載されています。



“ポイント”を意味します。

操作や内容のポイントとなる事柄について記載されています。



“参考”を意味します。

知っておくと便利な操作や内容などのノウハウについて記載されています。



“参照”を意味します。

操作や内容に関連するマニュアルの参照ページについて記載されています。

◆ マニュアルで使用している画像について

マニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

◆ 機能について

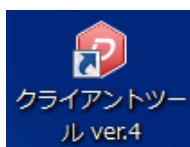
導入された製品構成によって、利用できない機能や制限があります。

1. 起動と終了

1-1 起動

DN クライアントを起動します。

- 1 デスクトップのショートカットアイコンをダブルクリックします。



Windows タスクバーの[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]、または、[すべてのプログラム]をクリックして表示されるプログラムメニューの[DataNature Smart ver.4]-[クライアントツール ver.4]からも起動できます。

▼[サーバーへの接続]ダイアログボックスが表示されます。



ユーザー名とパスワードが必要です。事前に DataNature 管理者へお問合せください。



スタンドアロンモードで起動、または Personal 版の場合は、[サーバーへの接続]ダイアログボックスは表示されません。起動するとすぐに、手順②のようこそ画面が表示されます。

- 2 ユーザー名、パスワードを入力し、[接続]ボタンをクリックします。

▼DN クライアントが起動し、ようこそ画面が表示されます。



DN クライアントは、1 台の PC で最大 5 つまで多重起動できます。

1-2 終了

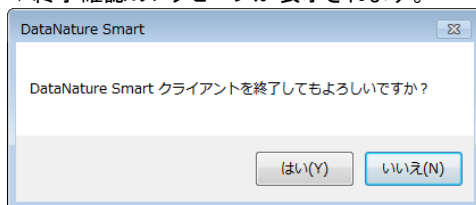
DN クライアントを終了します。

①



[終了]アイコンをクリックします。
(メニューバー[ファイル]-[終了])

▼終了確認のメッセージが表示されます。



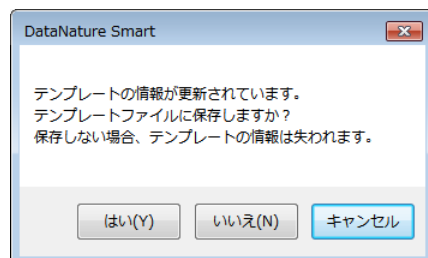
②

[はい]をクリックします。

▼DN クライアントが終了します。

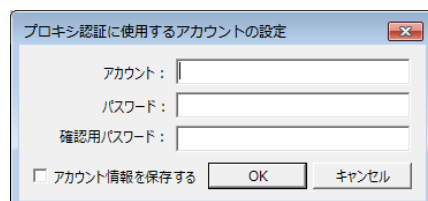


DataNature Smart の終了時に次のメッセージが表示される場合があります。



[はい]を選択すると、登録したテンプレートを「テンプレートファイル (*.dtmx)」に保存することができます。必要に応じて、ファイルの保存を行ってください。

[いいえ]選択すると、手順①のメッセージが表示されます。



[ツール]-[DataNature Smart のオプション]-[高度な設定]の「☐パフォーマンス情報を送信する」がチェックオンの時、インターネット接続時にプロキシ認証が必要な環境では下図のプロキシ認証用アカウントを設定するダイアログボックスが表示されます。設定後、「☐アカウント情報を保存する」をチェックオンにすれば次回から表示されません。パフォーマンス情報の送信については、ヘルプをご覧ください。

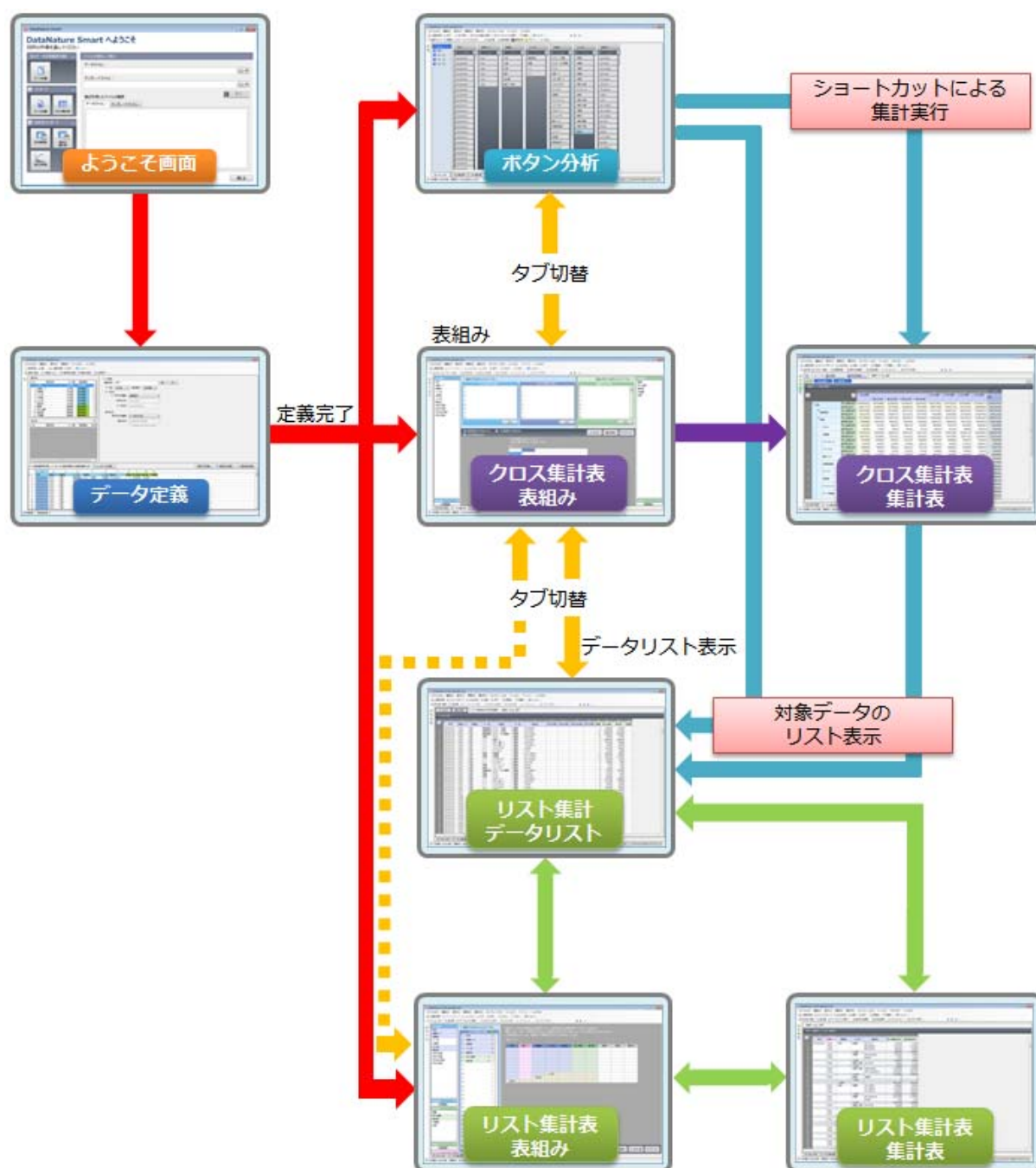
2. 画面の流れ

DN クライアントを起動すると、最初に表示されるのがようこそ画面です。データファイルやテンプレートファイルの読み込み、目的別ウィザードの起動などが行えます。

ファイルを読み込んだデータ定義画面では、項目列ごとにどのように利用するのかを定義します。定義完了後、集計表やボタン分析画面へと遷移します。

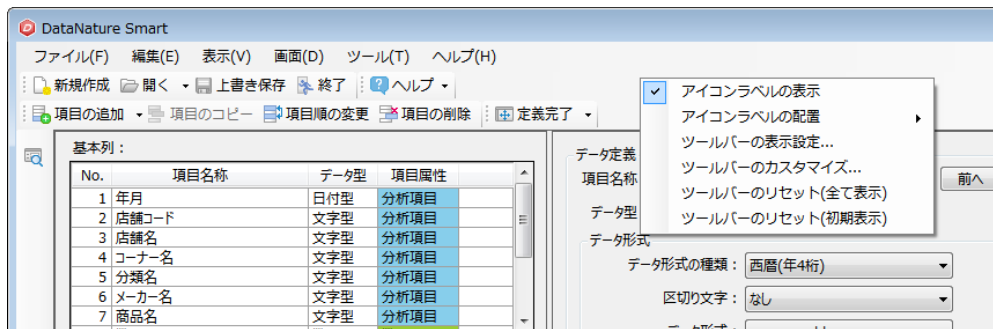
集計表はクロス/リストの2種類で、それぞれ表組み画面と集計表画面を持っています。また、リスト集計ではデータリストの表示が行えます。集計結果をグラフで確認することもできます。

ボタン分析画面では、データボタンを使った絞り込み検索や傾向分析などが行えます。



3. ツールバーの設定

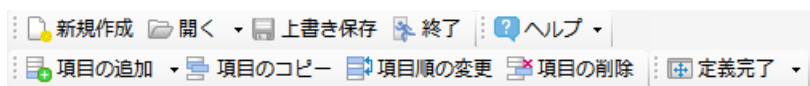
各画面のツールバー領域で右クリックして表示されるコンテキストメニューから、アイコンの表示を設定できます。アイコンラベル(機能名)の表示/非表示や配置、表示するアイコンの種類を、使いやすくカスタマイズできます。



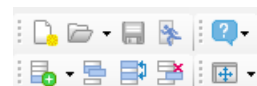
◆ アイコンラベルの表示

初期設定では、表示する設定になっています。メニューをクリックして、表示するかないかを切り替えられます。

▼ 表示する場合



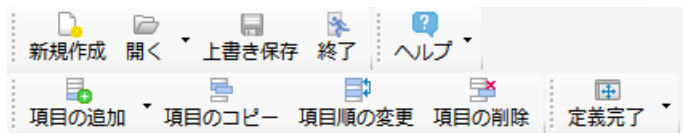
▼ 表示しない場合



◆ アイコンラベルの配置

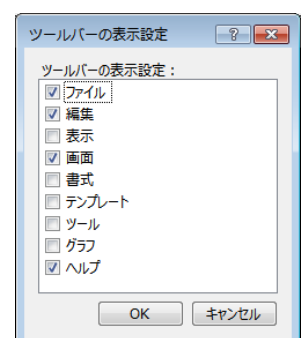
アイコンラベルを表示する場合、ラベルをアイコンの右側に表示するか、下側に表示するかを選択できます。初期設定では、右側に表示されます。

▼ 下側に表示する場合



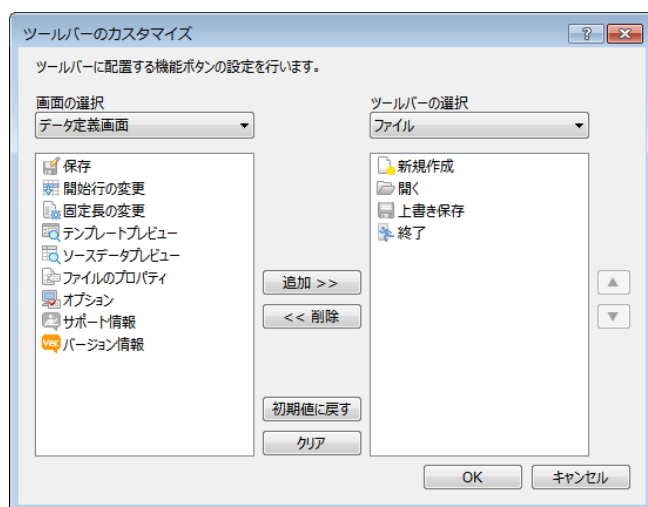
◆ ツールバーの表示設定

[ツールバーの表示設定]ダイアログボックスが表示されます。ツール(グループ)単位に、表示するアイコンを設定できます。画面によって、表示すべきアイコンがないグループは、チェックオフになっています。表示する場合は、後述の[ツールバーのカスタマイズ]を行ってください。



◆ ツールバーのカスタマイズ

[ツールバーのカスタマイズ]ダイアログボックスが表示されます。インストール直後のツールバーには、使用頻度が高いと思われる機能だけをアイコンとして表示しています。ツールバーに配置するアイコンを設定できます。



- 1 「画面の選択」欄から、カスタマイズを行う画面を選択します。
- 2 続いて、「ツールバーの選択」欄から、カスタマイズを行うツール(グループ)を選択します。
- 3 画面左側には、その画面で利用できるアイコンでまだツールバーに配置されていないものが、右側には、ツールバーに配置されているものがそれぞれ表示されています。アイコンを選択して[追加>>][<<削除]ボタンを使ってツールバーに表示するアイコンをカスタマイズします。
- 4 設定後、[OK]ボタンをクリックします。

◆ ツールバーのリセット(全て表示/初期表示)

ツールバーの設定をリセットします。リセットの方法は 2 つあり、全てのアイコンを表示するか、あるいはインストール直後の状態に戻します。

4. ファイルの種類と機能

4-1 データファイル

ようこそ画面では、集計対象となる基データを指定できます。指定できるファイルの種類は以下の通りです。



DN クライアントで読み込めるデータは、1,000 万件（スタンドアロンモード/Basic 版/Personal 版では 120 万件）です。但し、データ量（サイズ）やご利用の PC 環境に依存するため、必ずしも保障する上限件数ではありません。

オリジナルファイル	基データとテンプレート情報を一緒に保存した DataNature 専用ファイル (*.xdsf) です。DN クライアントがインストールされている環境では、ファイルをダブルクリックして開くこともできます。
テキストファイル	カンマ区切り (*.csv)、タブ区切り (*.txt)、固定長 (*.txt) の 3 種類のテキストファイルです。固定長テキストファイルを選択した場合は、[固定長の変更(新規作成)]ダイアログボックスが表示され、項目名称と区切り位置(桁数)を指定できます。
Excel ブックファイル	Excel ファイル (*.xls, *.xlsx) を直接読み込みます。[項目の選択]ダイアログボックスが表示され、読み込むシート名を指定します。なお、パスワード付きの Excel ファイルは読み込めません。
MS-Access データベース	Access ファイル (*.mdb, *.accdb) を直接読み込みます。[項目の選択]ダイアログボックスが表示され、読み込むテーブルやクエリ名を指定します。
抽出条件ファイル	DN 管理ツールのデータ抽出、または DataNature Smart データ抽出ツールで作成された抽出条件ファイル (*.ecox) です。データベースから必要なデータを取得するための定義です。なお、DataNature Smart フォルダ以外に保存されているファイルを読み込む際は、ファイル作成時に設定されていた ODBC データソースと同じ設定が必要です。

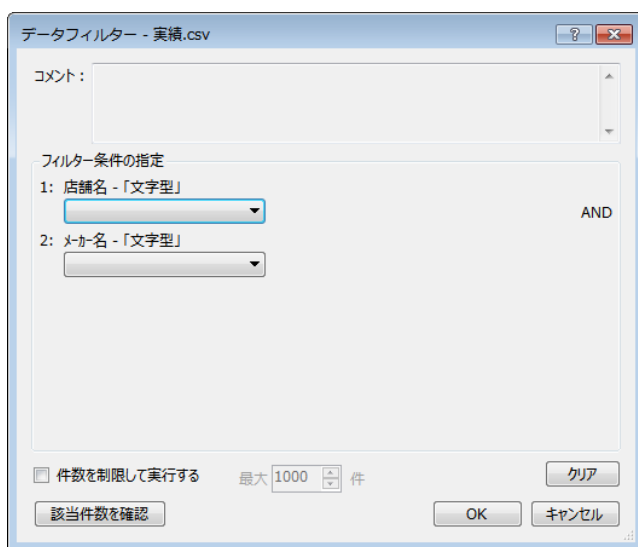
クライアントモードで起動した場合、ファイルの参照先を「DataNature Smart フォルダ」か「個人フォルダ」から選択できます。スタンドアロンモードで起動、または Personal 版の場合は、「個人フォルダ」にのみアクセスできます。



「DataNature Smart フォルダ」を利用する場合は、事前に、DN 管理ツールで公開設定を行う必要があります。詳しくは DataNature 管理者へご確認ください。

<データフィルター>

DN 管理ツールで「データフィルター」の設定を行っているオリジナルファイル (*.xdsf)、または、カンマ区切りテキストファイル (*.csv) を指定した場合、[データフィルター(ファイル名)]ダイアログボックスが表示されます。



条件を指定することにより、特定のデータだけを抽出することができます。



データフィルターは、事前に、DN 管理ツールで設定を行う必要があります。詳しくは DataNature 管理者へご確認ください。
スタンドアロンモード、または Personal 版ではデータフィルターはご利用いただけません。

<パラメーターファイル>

パラメーターファイル(*.xdnp)は、DN クライアントで作成・利用するファイルです。データファイルやテンプレートファイル、ログインに必要なユーザー名やパスワードといった情報を予め指定し保存できます。



スタンドアロンモードで起動していない、または Personal 版でない場合は、[ファイル]メニューの[パラメーターファイル]が無効になっている場合があります。事前に、DN 管理ツールで有効にする設定が必要です。詳しくは DataNature 管理者へご確認ください。

データファイル	分析対象データを指定します (Access や Excel を指定した場合、対象となるテーブル名や Sheet 名の指定も可能です)。また、起動後に表示するフォームやデータ開始行の変更も行えます。
テンプレートファイル	テンプレートファイルを指定します。起動後に実行するテンプレートを番号で指定することも可能です。
ログイン情報	ユーザー名/パスワードを予め指定することで、DN クライアント起動時に表示される[サーバーへの接続]ダイアログボックスの省略が可能です。 (スタンドアロンモードで起動、または Personal 版の場合は、この設定は不要です)

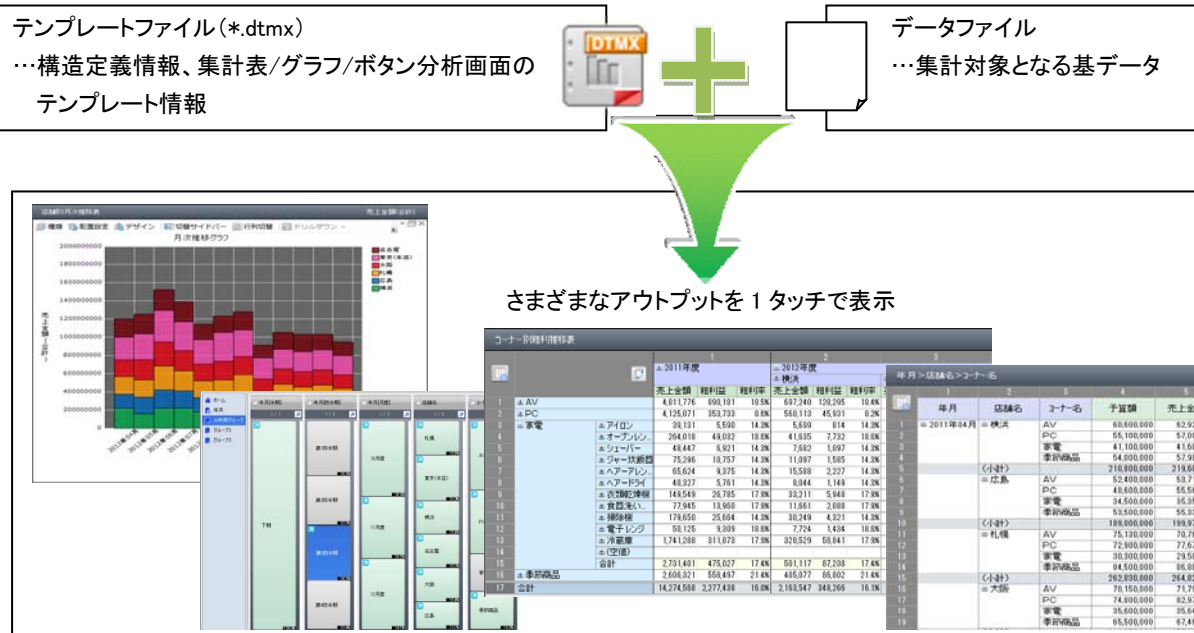
各設定後、[保存]ボタンをクリックし、パラメーターファイル(*.xdnp)を保存します。保存したファイルをダブルクリックすると、設定された情報で DN クライアントが起動されます。設定ダイアログボックスの詳細については、DN クライアントのヘルプを参照してください。

4-2 テンプレートファイル

各画面で登録したテンプレートを保存するファイル(*.dtmx)です。データ定義画面で設定したデータ型や項目属性といった構造定義情報や、集計表/グラフ/ボタン分析画面のテンプレート情報を持っています。

テンプレートファイルのみを直接作成したり、開くこともできます。例えば、システムの運用開始前で実データがないような場合には、テンプレートだけを事前に作成して、その内容に見合うデータファイルを運用開始後に読み込んで利用することもできます。

なお、1つのテンプレートファイルには、最大 256 個のテンプレートを保存できます。



テンプレートについては、C00_01 テンプレートをご覧ください。